

竹林化学工業株式会社
安全データシート

作成 : 2012年07月09日

改定③ : 2023年12月19日

1. 化学品及び会社情報

製品名 : クリアーウレタン80・クリアーウレタン80中型用 A液
会社名 : 竹林化学工業株式会社
住所 : 大阪府東大阪市洪川町3丁目1番43号
担当部門 : 品質管理部(担当者 大江吉郎)
電話番号 : 06-6721-6165
FAX.番号 : 06-6720-7308
緊急連絡先 : 06-6721-6165
奨励用途と使用上の制限 : 成形材
整理番号 :

2. 危険有害性の要約

重要な危険有害性及び影響 :

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分に該当しない

(経皮) : 区分に該当しない

(吸入;気体) : 分類できない

(吸入;蒸気) : 分類できない

(吸入;粉じん及びミスト) : 区分4

皮膚腐食性/皮膚刺激性 : 区分に該当しない

眼損傷性/眼刺激性 : 区分に該当しない

呼吸器感作性 固体/液体 : 区分に該当しない

呼吸器感作性 気体 : 区分に該当しない

皮膚感作性 : 区分1

生殖細胞変異原性 : 分類できない

発ガン性 : 分類できない

生殖毒性 : 分類できない

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 分類できない

誤えん有害性 : 分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性) : 分類できない

水性環境有害性 長期(慢性) : 分類できない

オゾン層への有害性 : 分類できない

竹林化学工業株式会社

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

: 警告

危険有害性情報

: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
吸入すると有害
呼吸器への刺激のおそれ

注意書き

[安全対策]

: 使用前に取扱説明書を入手し、全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は手をよく洗うこと。

屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

特別な処置が必要である。(SDSの4項を見よ)。

[応急措置]

: 取り扱った後、手を洗うこと。

皮膚に付着した場合: 多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診断／手当を受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

[保管]

: 容器を密閉して、換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

[廃棄]

: 内容物/容器を廃棄する時は、関係省令に基づき、自社で適正に処理するか又は廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分

: ポリイソシアネート変性体

成分及び含有量

: ① ヘキサメチレンジイソシアネートオリゴマー 約100%
② ヘキサメチレンジイソシアネート <0.3%

化学式又は構造式

: ① -
② C8H12N2O2

官報公示整理番号(化審法)

: ① (7)-876
② (2)-2863

官報公示整理番号(安衛法)

: ① -
② 既存

CAS番号

: ① 28182-81-2
② 822-06-0

4. 応急措置

吸入した場合

: 被災者を空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

: 多量の水および石鹸で洗い流す。皮膚刺激や発疹が生じた場合または気分が悪い時は、医師に連絡すること。医師の診察、手当を受けること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
医師の診察、手当を受けること。

目に入った場合

: 直ちに清浄な流水で15分以上洗眼した後、医師の処置を受ける。
コンタクトレンズの有無を確認し、容易に外せる場合には外すこと。
眼の刺激が続く場合は、医師の診察を受けること。

竹林化学工業株式会社

- 飲み込んだ場合 : 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
応急措置をする者の保護 : 救済者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。
5. 火災時の措置
- 消火剤 : 粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂。
使ってはならない消火剤 : 棒状の水。
特有の危険有害性 : イソシアネートは水と反応し二酸化炭素を発生する為、密閉容器の破裂に注意。
可燃性、燃焼中に有毒ガスが発生する。
特有の消火方法 : 棒状放水は可燃物飛散の恐れがある為、行わないこと。
二酸化炭素又は粉末ドライケミカルで初期消火にあたる。
火災が広がった時は大量の噴霧水で消火する。
着火していないドラム設備などに放水し、延焼・過熱防止や破裂の防止に努める。
消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め完全な防護服(耐熱性)を着用する。
その他情報 : 風上に滞在する。被災者を煙霧から避難させる。近くで重大な火災が発生した場合は、熱に晒されたコンテナ、機器を放水で冷やす。但し、くれぐれも水と本製品が直接接触しない様にする。煙霧を吸い込まない様にする。
適切な保護具無しでは消火に当たらない。
6. 漏出時の措置
- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
漏出場所の風上から作業し、風下の人を退避させる。
作業者は適切な保護具(「8.暴露防止措置及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
- 環境に対する注意事項 : 漏出物が河川等へ排出されないよう注意する。
封じ込め及び浄化の方法・機材 : 土砂、液体吸着剤(砂珪藻土、酸結合剤、ユニバーサル結合剤)などに吸収させ、蓋付き容器に回収する。汚染領域を大量の水で洗浄する。洗浄水は回収し廃棄する。
13項に従い、汚染物は廃棄物として処理する。
- 二次災害の防止策 : すべての発火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火災の禁止)
その他 : 安全な取扱い方に関しては7項、人の保護装備の情報に関しては8項、廃棄処分に関しては13項参照。
7. 取扱い及び保管上の注意
- 取扱い
- 技術的対策 : 「8.暴露防止措置及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体廃棄 : 「8.暴露防止措置及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項 : 接触、吸入又は飲み込まないこと。水または湿気との接触を避ける。
この製品を使用する時にはSDSをよく読み理解してから取り扱う。喫煙又は飲食をしないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。設備には静電気対策を実施すること。
環境への放出を避けること。
- 保管
- 適切な保管条件 : 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。保管所の床は不浸透性とすべきである。施錠して保管する。乾燥窒素にて容器を満たし、空気、水、湿気に触れないようにする。酸化剤などの混触危険物から離して保管する。
未開封のオリジナル容器にて保管する。
- 安全な容器包装材料 : 法令の定めるところに従う。鉄、アルミ。

竹林化学工業株式会社

8. 暴露防止及び保護措置

| | | |
|------------|--------|--|
| 設備対策 | : | この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗顔器とシャワーを設置すること。 暴露を防止する為、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。 |
| 保護具 | 目 | : 保護眼鏡(ゴーグル型) |
| | 手 | : 保護手袋(ニトリゴム等、不浸透性のもの) |
| | 皮膚及び身体 | : 適切な保護衣、保護面、保護靴を着用する。 |
| | 呼吸器 | : 有毒ガス用防毒マスク。スプレーガン使用時、換気が不自由な場合は、自給式呼吸器を使用する。 |
| 管理濃度 | : | 0.005ppm(ヘキサメチレンジイソシアネート) |
| 許容濃度 | | |
| 日本産業衛生学会 | : | 0.034mg/m ³ (ヘキサメチレンジイソシアネート) 0.005ppm(ヘキサメチレンジイソシアネート) |
| ACGIH | : | 0.034mg/m ³ (ヘキサメチレンジイソシアネート) 0.005ppm(ヘキサメチレンジイソシアネート) |
| 保護具 | | |
| 呼吸器用の保護具 | : | 必要により有機溶剤用防毒マスク。 |
| 手の保護具 | : | 不浸透性(耐薬品、耐油、耐溶剤)保護手袋。 |
| 目の保護具 | : | 側板付保護眼鏡(必要によりゴーグル型または全面) |
| 皮膚及び身体の保護具 | : | 静電気防止加工長袖作業衣等。 |
| 適切な衛生対策 | : | 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。 |

9. 物理的及び化学的性質

| | | |
|----------------------|---|--------------------------------|
| 物理状態 | | |
| 形状 | : | 液体 |
| 色 | : | 微黄色透明 |
| 臭い | : | なし |
| 臭いの閾値 | : | データなし。 |
| pH | : | データなし(水不溶) |
| 物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲 | | |
| 沸点 | : | >220°C(at1.33hPa) |
| 融点 | : | <-20°C |
| 分解温度 | : | データなし。 |
| 引火点 | : | 169°C(クローズカップ°) |
| 自然発火点 | : | 480°C |
| 爆発特性 | | |
| 爆発限界 上限 | : | データなし。 |
| 爆発限界 下限 | : | データなし。 |
| 蒸気圧 | : | データなし。 |
| 蒸気密度 | : | データなし。 |
| 比重 | : | 1.12g/cm ³ (25°C) |
| 溶解性 | | |
| 水溶解性 | : | 難溶 |
| 溶媒溶解性 | : | 水:反応する。芳香族炭化水素に溶解。ケトン・エステルに溶解。 |
| n-オクタノール/水分配係数 | : | データなし。 |
| 自然発火温度 | : | データなし。 |
| その他のデータ | : | データなし。 |

竹林化学工業株式会社

10. 安定性及び反応性

- 安定性 : 常温、常圧、窒素封入下で安定。
- 危険有害反応可能性 : 本製品は非常に活性が強く、水、アルコール、アミンなどの活性水素化合物と反応して発熱する。塩基性物質や、ある種の金属化合物の存在によって重合発熱する。水と反応して二酸化炭素を発生する。
- 避けるべき条件 : イソシアネートと反応する水等との接触を避けること。
- 混触危険物質 : 活性水素化合物(水、アルコール、アミン等)、強酸化剤
- 危険有害な分解生成物 : 窒素化合物、二酸化炭素(燃焼時)
- その他 : 情報なし。

11. 有害性情報

- 急性毒性 (経口) : 区分に該当しない。(ラットLD50>5,000mg/kgヘキサメチレンジイソシアネートオリゴマー)
(ラットLD50 959mg/kgヘキサメチレンジイソシアネート)
- (経皮) : 区分に該当しない。(ラットLD50>2,000mg/kgヘキサメチレンジイソシアネートオリゴマー)
(ラットLD50>7,000mg/kgヘキサメチレンジイソシアネート)
- (吸入:気体) : 分類できない
- (吸入:蒸気) : 分類できない
- (吸入:粉じん及びミスト) : 区分4 (ラットLD50 0.402mg/L/4hヘキサメチレンジイソシアネートオリゴマー)
(ラットLD50 0.124mg/L/4hヘキサメチレンジイソシアネート)
- 皮膚腐食性/皮膚刺激性 : 区分に該当しない。(区分外:OECD404ラット)
- 眼損傷性/眼刺激性 : 区分に該当しない。(区分外:OECD405ラット)
- 呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 皮膚感作性:区分1
(OECD429マウス・皮膚接触により感作を引き起こす事がある。)
- 生殖細胞変異原性 : 分類できない
- 発ガン性 : 分類できない
ヘキサメチレンジイソシアネート:NOAEC Chronic 吸入0.164ppm(OECD453ラット)
- 生殖毒性 : 分類できない
- 特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3(ヘキサメチレンジイソシアネートオリゴマー)
NOAEL(吸入・蒸気)3mg/m³(6h/OECD TG 403ラット)
- 特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 分類できない
ヘキサメチレンジイソシアネートオリゴマー
NOAEL(吸入・13週間)3.4mg/m³(OECD 413ラット)
LOAEL(吸入・13週間)21mg/m³(OECD413ラット)
ヘキサメチレンジイソシアネート
LOAEL(吸入・蒸気90日間)0.01ppm(OECD413ラット)
NOAEC.Chronic.吸入0.005ppm(2年、OECD 453ラット)
- 誤えん有害性 : データ無し。分類できない

竹林化学工業株式会社

12. 環境影響情報

| | |
|---------|--|
| 生態毒性 | : 分類できない ヘキサメチレンジイソシアネートオリゴマー EC50 other aquatic organisms 1 >=100mg/L(Daphnia sp./AFNOR T90 301) LOEC(acute) >=100mg/L(72h/Desmodesmus subspicatus/EU C.3) ヘキサメチレンジイソシアネート LC50 fish 1 22mg/L(96h-static/Brachydanio rerio) EC50 other aquatic organisms 1 842mg/L(3h-static/Bacterie/OECD 209) ErC50(algae) >77.4mg/L Desmodesmus sebspicatus LOEC(chronic) 12.6mg/L(72h/Desmodesmus subspicatus/EU method C 3) NOEC(chronic) 11.7mg/L(72h/Desmodesmus subspicatus/EU method C 3) EC0.dephnia ≥89.1mg/L(48H.EU C.2) LC0.Fish ≥82.8mg/L(96H.EU C.1.(Danio rerio)) EC50.Bacteria 842mg/L(3H.(OECD 209 method)) |
| 残留性/分解性 | : ヘキサメチレンジイソシアネートオリゴマー: 生分解性無し ヘキサメチレンジイソシアネート: BOD 28日42%(ハクテリア) (EU C.4-D) |
| 生体蓄積性 | : ヘキサメチレンジイソシアネート: BCF 58(fish)(BCFWIN v.2.17) |
| 土壤中の移動度 | : ヘキサメチレンジイソシアネート: Log Koc 3.77(PCKOC v1.66) |
| その他のデータ | : データなし。 |

13. 廃棄上の注意

| | |
|----------|--|
| 残余廃棄物 | : 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。 |
| 汚染容器及び包装 | : 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処理を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。 |

14. 輸送上の注意

| | |
|------------|---------------------------------------|
| 国際法規制 | : 国連危険物に該当しない。 |
| 国内法規制 陸上輸送 | : 消防法、労働安全衛生法等に該当する場合は定められている運送方法に従う。 |
| 海上輸送 | : 船舶安全法に該当する場合は定められている運送方法に従う。 |
| 航空輸送 | : 航空法に該当する場合は定められている運送方法に従う。 |
| 国連分類 | : 該当なし |
| 国連番号 | : 該当なし |
| 容器等級 | : 該当なし |
| 海洋汚染物質 | : 該当しない。 |

輸送の特定の安全対策及び条件

: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。消防法危険物第4類第3石油類に該当するので、同法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。船舶安全法に基づく危規則の引火性液体類に該当するので、海上輸送の場合には、同法に従って容器、標識およびその他の必要な措置を講じて輸送する。
充填後、抜き取り後の輸送容器は窒素ガス又は乾燥空気でシールしておく。

15. 適用法令

国内適用法

| | | |
|------------------|------------------------------|--------------------------------------|
| 化審法 | 特定化学物質 監視化学物質 優先評価化学物質 | : - |
| 消防法 | 危険物 有機則 特化則 | : 第四類引火性液体、第三石油類非水溶性液体 : - : - |
| 安衛法 | 通知対象物質 表示 | : 519号 ヘキサメチレンジイソシアネート<0.3%含有 : - |
| 毒物劇物取締法 | | : - |
| 化学物質管理促進法(PRTR法) | | : - |
| 海洋汚染防止法 | | : - |
| 悪臭防止法 | | : - |

16. その他の情報

引用文献

- 1) 原料SDS
- 2) 社団法人 日本塗料工業会

※ ここに記載した情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。すべての化学製品には未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。使用前のテストを含め、本品の適性に関する決定は使用者の責任において行ってください。

記載内容の問合せ先

会社 : 竹林化学工業株式会社
担当部門 : 品質管理部

安全データシート

作成 : 2012年7月9日
改定②: 2023年11月20日

1. 化学品及び会社情報

製品名 : クリアーウレタン80 B液・クリアーウレタン80中型用 B液
会社名 : 竹林化学工業株式会社
住所 : 大阪府東大阪市渋川町3丁目1番43号
担当部門 : 品質管理部(担当者 大江吉郎)
電話番号 : 06-6721-6165
FAX.番号 : 06-6720-7308
緊急連絡先 : 06-6721-6165
奨励用途と使用上の制限 : 成形材料
整理番号 :

2. 危険有害性の要約

重要な危険有害性及び影響 :
GHS分類
物理化学的危険性
可燃性液体 : 区分に該当しない
健康に対する有害性
急性毒性 (経口) : 分類できない。
(経皮) : 分類できない。
(吸入;気体) : 分類できない。
(吸入;蒸気) : 分類できない。
(吸入;粉じん及びミスト) : 分類できない。
皮膚腐食性/皮膚刺激性 : 分類できない。
眼損傷性及び眼刺激性 : 分類できない。
呼吸器感作性 : 分類できない。
皮膚感作性 : 分類できない。
生殖細胞変異原性 : 分類できない。
発ガン性 : 分類できない。
生殖毒性 : 分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 分類できない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 分類できない。
誤えん有害性 : 分類できない。
環境に対する有害性
水生環境有害性 短期(急性) : 分類できない。
水性環境有害性 長期(慢性) : 分類できない。
オゾン層への有害性 : 分類できない。

GHSラベル要素

絵表示 : -
注意喚起語 : -
危険有害性情報 : -
注意書き

[安全対策] : 使用前に取扱説明書入手し、全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

[応急措置] :
眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合 : 医師の診断/手当てを受けること。
飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。
意識のない場合、口から何も与えてはならない。医師の診察を受けること。
気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。

[保管] : 容器から必要な分を取り出した後、速やかに密閉し冷暗所にて保管。

[廃棄] : 内容物/容器を廃棄する時は、関係省令に基づき、自社で適正に処理するか又は廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分 : 混合物

成分及び含有量 : ① -

化学式又は構造式 : ① -

官報公示整理番号(化審法) : ① -

官報公示整理番号(安衛法) : ① -

CAS番号 : ① -

※ スズ化合物を0.02%未満含む

4. 応急措置

吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移動させ安静にし、直ちに医師の処置を受ける。必要に応じて医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合 : 多量の水および石鹼で洗い流す。症状が出た場合は、必要に応じて医師の診断を受ける。

目に入った場合 : 直ちに清浄な流水で15分以上洗眼した後、医師の処置を受ける。

飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。

応急措置をする者の保護 : 救済者は、適切な保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤 : 粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂。

使ってはならない消火剤 : 棒状の水。

特有の危険有害性 : 燃焼ガスには、窒素酸化物や一酸化炭素等の有害ガスが含まれるので、消火作業の際には煙の吸入を避ける。

特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火作業は、可能な限り風上から行う。関係者以外は安全な場所に退避させる。周囲の設備などに散水して冷却する。消火のための放水等により、製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護 : 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。燃焼ガスには、一酸化炭素等の有害ガスが含まれているので、消火作業の際には、適切な呼吸用保護具を着用し、煙の吸入を避ける。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- : 作業には、必ず適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。多量の場合、関係者以外を安全な場所に退避させ、風上から作業する。
必要に応じた換気を確保する。

環境に対する注意事項

- : 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。

除去方法

- : 少量の場合、吸着剤(土、砂、ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等によく拭き取る。大量の水で洗い流す。多量の場合、シャベル等でドラムに回収する。

二次災害の防止策

- : 付近の着火源となるものを速やかに取り除くと共に消火剤を準備する。床を濡れた状態で放置すると滑り易く、スリップ事故の原因となるため注意する。漏出物の上をむやみに歩かない。火花を発生しない安全な用具を使用する。回収物の収納容器は、内容物の処分を行うまで密閉しておく。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- : 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

注意事項

- : 火気厳禁。

安全取扱い注意事項

- : 作業場の換気を十分に行う。保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。

保管

適切な保管条件

- : 屋内の通気のよい場所で容器を密閉して保管する。火気厳禁。高温に注意。

安全な容器包装材料

- : 製品使用の容器に準ずる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

- : 蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
機械類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。

管理濃度

:

許容濃度

日本産業衛生学会

: -

ACGIH

: -

保護具

呼吸器用の保護具

- : 必要により有機溶剤用防毒マスク。

手の保護具

- : 不浸透性(耐薬品、耐油、耐溶剤)保護手袋。

目の保護具

- : 側板付保護眼鏡(必要によりゴーグル型または全面)

皮膚及び身体の保護具

- : 長袖作業衣等。

適切な衛生対策

- : 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

| | |
|-------|---------------|
| 形状 | : ペースト |
| 色 | : 淡黄色 |
| 臭い | : 僅かに固有の臭気あり。 |
| 臭いの閾値 | : データなし。 |
| pH | : データなし(水不溶) |

物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲

| | |
|------|-----------|
| 沸点 | : データなし。 |
| 融点 | : データなし。 |
| 分解温度 | : データなし。 |
| 引火点 | : 200°C以上 |
| 発火点 | : データなし。 |

爆発特性

| | |
|---------|----------|
| 爆発限界 上限 | : データなし。 |
| 爆発限界 下限 | : データなし。 |

| | |
|------|----------|
| 蒸気圧 | : データなし。 |
| 蒸気密度 | : データなし。 |
| 比重 | : データなし。 |

溶解性

| | |
|----------------|------------------------|
| 水溶解性 | : 難溶 |
| 溶媒溶解性 | : トルエン、キシレン、酢酸エチル等に可溶。 |
| n-オクタノール/水分配係数 | : データなし。 |
| 自然発火温度 | : データなし。 |
| その他のデータ | : |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|---------------------------------|
| 安定性 | : 通常の手扱い条件において、光、熱、衝撃に対し化学的に安定。 |
| 危険有害反応可能性 | : 自己反応性なし。 |
| 避けるべき条件 | : 情報なし。 |
| 混触危険物質 | : 強酸、強酸化剤 |
| 危険有害な分解生成物 | : 炭素酸化物 |
| その他 | : 情報なし。 |

11. 有害性情報

急性毒性 (経口) : 分類できない
(経皮) : 分類できない
(吸入:気体) : 分類できない
(吸入:蒸気) : 分類できない
(吸入:粉じん及びミスト) : 分類できない
皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 分類できない。

眼損傷性及び眼刺激性 : 分類できない。

呼吸器感作性又は皮膚感作成 : 分類できない。
生殖細胞変異原性 : 分類できない。
発ガン性 : 分類できない。
生殖毒性 : 分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)

: 分類できない。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)
: 分類できない。

吸引性呼吸器有害性 : 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性 : 分類できない。

残留性/分解性 : 分類できない。

生体蓄積性 : データなし。

土壌中の移動度 : データなし。

その他のデータ : データなし。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 焼却する場合、関連法規・法令を遵守する。廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物の収集運搬業者や処理業者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を遵守して、適正に処理する。廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)の特別管理廃棄物、消防法を遵守し、適正に処理する。

汚染容器及び包装 : 空の汚染容器・包装を廃棄する場合、内容物を除去した後に、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物の収集運搬業者や処理業者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を遵守して、適正に処理する。

14. 輸送上の注意

| | | |
|--------|------|---------------------------------------|
| 国内法規制 | 陸上輸送 | : 消防法、労働安全衛生法等に該当する場合は定められている運送方法に従う。 |
| | 海上輸送 | : 船舶安全法に該当する場合は定められている運送方法に従う。 |
| | 航空輸送 | : 航空法に該当する場合は定められている運送方法に従う。 |
| 国際法規制 | | : 航空運輸はIATA、および海上輸送はIMDGの規制に従う。 |
| 国連分類 | | : - |
| 国連番号 | | : - |
| 国連品名 | | : - |
| 容器等級 | | : - |
| 海洋汚染物質 | | : - |

輸送の特定の安全対策及び条件

: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

国内適用法

| | | |
|------------------|----------|-----------------|
| 化審法 | 特定化学物質 | : 否 |
| | 監視化学物質 | |
| | 優先評価化学物質 | |
| 消防法 | 危険物 | : 指定可燃物(可燃性液体類) |
| 安衛法 | 表示 | : 否 |
| | 有機則 | : 否 |
| | 特化則 | : 否 |
| | 通知対象物質 | : 否 |
| 毒物劇物取締法 | | : 否 |
| 船舶安全法 | | : 否 |
| 航空法 | | : 否 |
| 化学物質管理促進法(PRTR法) | | : 否 |
| 海洋汚染防止法 | | : 否 |
| 悪臭防止法 | | : 否 |

16. その他の情報

引用文献

- 1) 原料MSDS
- 2) 化学物質労働安全衛生法規制便覧(第一法規(株))

※ ここに記載した情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。すべての化学製品には未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。使用前のテストを含め、本品の適性に関する決定は使用者の責任において行ってください。

記載内容の問合せ先

| | | |
|------|---|-----------------|
| 会社 | : | 竹林化学工業株式会社 |
| 担当部門 | : | 品質管理部(担当者 大江吉郎) |